



2021年5月14日

各位

会社名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 経理財務部長 渡部 一夫
(電話番号 092-288-8470)

個別業績の前年実績との差異に関するお知らせ

当社は、2021年3月期（2020年4月1日～2021年3月31日）の個別業績につきまして、前年実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期個別業績と前期実績値との差異（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値（A）	百万円 437	百万円 △65	百万円 △62	百万円 △297	円 銭 △17.14
当期実績値（B）	376	△69	32	179	10.36
増減額（B-A）	△60	△3	94	477	
増減率（%）	△13.8	—	—	—	

差異の理由

売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で実験用動物であるサルの輸入が困難となり販売額が減少したことなどから、前期と比較して60百万円減少し376百万円となりましたが、当期から減資に伴い外形標準課税の適用がなくなり税金負担が減少したことや経費節減に努めたことから、営業損益につきましては前期比3百万円減の△69百万円に留まりました。

経常利益につきましては、主として子会社からの受取配当金83百万円を営業外収益に計上したことなどから、前期比94百万円増の32百万円となりました。

また、当期純利益につきましては、当社の保有する投資有価証券の減損処理による投資有価証券評価損42百万円を特別損失に計上した一方で、子会社の自己株式取得に応じて当社の保有する株式の一部を譲渡したことに伴い関係会社株式売却益98百万円を特別利益に計上したのに対して、前期は特別損失として貸倒引当金繰入額123百万円等の計上がありました。また、子会社の課税所得の増加により連結納税制度による連結法人税の受取額が増加し「法人税、住民税及び事業税」が前期比で143百万円減少したこと、繰延税金資産の回収可能性の見直しにより法人税等調整額が前期比で88百万円減少（減少は当期純利益の増加要因）したことなどから、前期比477百万円増の179百万円となりました。

以上